

所信表明及び令和7年度予算編成方針

リ・スタートうすき ～20年の歩みから新たな次の未来へ～

臼杵市長 西岡 隆

【所信表明】

市民の皆さま、昨年12月22日に行われた臼杵市長選挙では、多くの皆さまから温かいご支持をいただき、今年1月20日より市政を担うこととなりました。改めて心より感謝申し上げます。

私が臼杵に寄せる想いや、このまちの未来への願い、そして誰もが希望を持ち、安心して生まれ育ち、暮らし続けられるまちをめざして、全力で市政に取り組む決意をお伝えしたいと思います。

ご承知のとおり、臼杵市は「旧臼杵市」と「旧野津町」が合併し、令和7年1月で市政20周年を迎えました。この節目の年に、第3代市長として就任できたことを大変光栄に思うと同時に、変化の激しい時代にあって、多くの課題に向き合う重責を強く感じています。

これからの4年間、市民の皆さまから託された期待に応えるべく、現実をしっかりと見据え、一步一步着実に前進しながら、市政運営に全力を尽くしてまいります。

スローガンは「リ・スタートうすき」

臼杵市は、豊かな自然や文化、そして温かな人々に恵まれたまちです。この素晴らしい基盤を大切に守りながら、次の世代にも誇れるまちをつくるため、今こそ新たな挑戦を進めるときだと考えています。その想いを込め、市政20周年の節目を契機に、「リ・スタートうすき」をスローガンに掲げ、これまで培ってきた歴史や伝統、文化を土台に、市民の皆さまと共に未来に向けた新たな一歩を踏み出してまいります。

臼杵市八町大路火災への対応

このような状況の中で、まず、私が市長として取り組むべきことは、令和6年11月に発生した八町大路での火災への対応です。

この火災は、地域にとって大切な財産に大きな被害をもたらし、中心市街地に深刻な影響を与えました。被災された皆さまには心からお見舞いを申し上げますとともに、生活再建に向けて全力で支援してまいります。

復旧・復興にあたっては、被災した建物の再建支援に加え、地域全体のにぎわいを取り戻すため、新たな商業空間の整備や、観光資源としての魅力をさらに高める施策を進めていきます。被災された皆さま、商店街の皆さま、そして市民の皆さまと力を合わせ、本市が誇る歴史的な街並みを活かしながら、次の世代にも愛される八町大路とともに築いていく所存があります。

西岡新市政がめざす3つの柱

臼杵市は少子高齢化や人口減少という大きな課題に直面しています。この20年間で人口は1万人以上減少し、今後もその傾向が続くことが予想されています。私はこの現実を真摯に受け止め、持続可能な臼杵市を実現するために、次の3つの施策を重点的に進めてまいり

ます。

1つ目の柱は、「子育てしやすく、働きやすいまちづくり」

子どもたちは臼杵市の未来をつくる大切な存在です。子育て世代が安心して暮らし、子どもたちが夢や希望を持てる環境を整えていきます。

まず、子育て支援として、給食費の無償化を進め、家庭の経済的負担を軽くします。また、地元・臼杵市産の安全で新鮮な野菜を給食に取り入れ、子どもたちの健康な成長を応援します。

働きやすい環境づくりでは、デジタルや情報関連の仕事がしやすい場所や仕組みを整えます。都会で働く若い世代にも「臼杵で暮らしながら仕事をする」といういわゆる「二地域居住」の新しいライフスタイルを提案し、地域に新たな活気を生み出します。

さらに、妊娠期から子育て期まで切れ目のないサポートができるよう、デジタル技術を活用した支援体制を整えます。

教育面では、子どもたちがふるさと臼杵に誇りを持てるよう、地域の自然や文化、歴史を体験できる学びの場を充実させます。こうした体験を通じて、臼杵の魅力を実感し、地域への愛着を育んでいきます。

2つ目の柱は、「臼杵の地域資源の魅力発信」

臼杵市には、農業・林業・漁業をはじめとする豊かな自然と伝統があります。これからも地域の産業を元気にするために、新しい形のファーマーズスクールをつくり、次世代を担う若手の育成に力を入れます。さらに、地元でとれる農産物や水産物に新しい価値を加え、加工品の開発やブランド化を進めることで、全国や海外でも選ばれる特産品を増やしていきます。

観光面では、ユネスコの「食文化創造都市」というブランドを活かし、臼杵ならではの食の魅力を楽しめるイベントをもっと充実させます。さらに、デジタル技術を活用した観光案内を強化し、地元企業と協力して新しいビジネスの創出にも挑戦します。

令和7年は、臼杵石仏の国宝指定30周年をはじめ、多くの観光資源にとって節目の年です。これをきっかけに、臼杵にはいつ訪れても楽しいことがある、そんなまちのイメージを広げていきます。

そして、これからも先代から受け継いだ臼杵の歴史や文化の魅力を、日本だけでなく世界にも発信していきます。

3つ目の柱は、「住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」

誰もが安心して暮らせる環境を整えることは、市の大切な役割です。特に、災害への備えを強化するため、防災情報をすばやく共有できる体制を整えたり、避難所の設備を改善したりして、いざというときに迅速に対応できる環境をつくれます。

また、地域の皆さまが普段から支え合える関係を築けるよう、地域振興協議会を中心に地域コミュニティのつながりを深めていきます。こうした取り組みを通じて、災害時だけでなく、高齢化社会における課題にも対応していきます。

さらに、医療や介護、福祉の連携を強化し、臼杵市独自の「うすき石仏ねっと」を活用して、認知症の方へのサポートや在宅医療の支援をより充実させていきます。

「未来プロジェクト室」新設

上記の3つの重点施策についてスピード感をもって進めていくため、市の組織体制も見直しを進めます。まず、令和7年度からは、各施策を力強く推進するための「未来プロジェクト室」を秘書・総合政策課内に新設し、関係する各課と連携しながら事業を進めていきます。

市民との対話を大切に

私が市長として何より大切にしたいのは、市民の皆さまとの対話です。市政は、市民の皆さま一人ひとりの声に支えられています。これからも、市内の様々な団体や地域の皆さまとの対話の場を積極的に設け、そこでいただいたご意見やアイデアを、臼杵の未来をより良くするための大きな力にしていきます。市民の皆さま、議員の皆さま、そして行政が一緒になって「何ができるか」を考え、具体的な政策に結びつけていきます。

これからの4年間、現実をしっかりと見つめ、市民の皆さまの声に耳を傾け、心に寄り添う市政をめざして全力を尽くしてまいります。

【令和7年度予算編成方針】

令和7年度の当初予算では、本市にとって重要な課題である人口減少に対応するため、「子育てしやすく、働きやすいまちづくり」、「臼杵の地域資源の魅力発信」、「住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」の実現に向け、各施策を進める初年度の予算として、スピード感を持って積極的に編成しました。

まず、八町大路の復興に向けて、空き店舗などで営業を再開される方には、「空き店舗等総合支援事業」を活用して支援します。

また、焼失した場所の復興方法について話し合う場を早期に設け、今後も被災された方々に寄り添い、必要な支援を進めていきます。

1つ目の柱は、「子育てしやすく、働きやすいまちづくり」

国が掲げる「こどもまんなか社会」の実現に向け、関係機関と連携を強化し、妊娠中の方や子育て世帯、子どもたちを全力で応援します。子どもの幸せを最優先に考え、様々な支援に取り組んでいきます。

まず、子育て世帯の経済的負担を減らし、安心して子育てができる環境を整えるために、小中学校の給食費を無償化します。あわせて、地元で採れた新鮮な野菜を使い、さらに有機米の導入にも取り組むことで、より質の高い給食を提供します。

保育に関しては、親の就労状況に関わらず保育所などを利用できる「こども誰でも通園制度」の令和8年度の本格実施に向けて、先行事業に積極的に取り組みます。

また、これまで進めてきた 保育料の完全無償化や高校生世代までの入院・通院医療費の完全無料化、不妊治療の助成、妊産婦医療費の助成、出産祝い品の贈呈、産後ケア事業、そして 保育園や認定こども園の副食費の助成などの支援も引き続き行い、子どもを安心して産み、育てられる環境づくりをさらに強化します。

新たな取り組みとして、若い世代が結婚・出産・子育てを見据えたライフプランを考えられるよう、情報提供を行うプレコンセプションケア事業の研究を進めます。

教育環境の充実 では、小中学生の基礎学力の定着と向上を目指し、ICTを活用した教育をさらに拡充します。令和2年度に導入した学習用タブレットを更新し、プログラミングアプリを取り入れるほか、アシスタントティーチャーやICT教育支援員を配置して、子どもたち

の学びを支えます。放課後には、放課後チャレンジ教室 をさらに充実させ、子どもたちが安心して学べる場所を提供します。

スポーツ環境の整備では、臼杵市民球場(フジジンの杜スタジアム) のスコアボード改修に取り組み、地域のスポーツ活動を支えていきます。

2つ目の柱は、「臼杵の地域資源の魅力発信」

農業の振興については、「第2次臼杵市食と農業基本計画」を着実に実施するため、農業振興会議を通じて関係機関と連携し、進捗状況を確認しながら取り組んでいきます。

地元の企業や事業者の支援については、事業の拡大や新たな雇用を生み出すため、設備投資や人材雇用にかかる費用の一部を引き続き助成します。これにより、市内の中小企業が成長し、地域に新しい仕事生まれるよう、制度の見直しも進めます。

また、ユネスコ創造都市ネットワークの一員として、今年も総会に参加し、世界の都市との情報交換を行います。特に、食文化の分野で他の都市と交流・連携し、臼杵の食の魅力を世界に発信していきます。

観光では、城下町の歴史的建物を活用した体験型観光ツアー「USUKI ベニユー」の取り組みをさらに広げ、JR九州の豪華寝台列車「ななつ星」やクルーズ船の観光客を誘致するため、より付加価値の高い体験ツアーを企画・提供します。

さらに、国史跡に指定されることとなった臼杵城跡については、歴史的な価値を伝える映像や、江戸時代の様子を再現したデジタルコンテンツの制作に取り組み、より多くの方に臼杵の歴史を楽しんでいただけるようにします。

加えて、今年は「臼杵磨崖仏の国宝指定 30 周年」、「野上弥生子氏生誕 140 周年」、「臼杵の地酒による乾杯条例制定 10 周年」、「常陸太田市との姉妹都市締結 10 周年」と臼杵にとって節目となる記念の年です。これらの機会を活かし、臼杵ならではの歴史や文化、食の魅力を発信し、持続可能で活気あるまちづくりにつなげていきます。

3つ目の柱は、「住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」

地域の核となる地域振興協議会については、住民の皆さまが主体となって行う活動やイベントを引き続き支援し、地域コミュニティの活性化をさらに後押ししていきます。

移住・定住の支援では、家賃補助や住宅の新築・改修に対する補助制度を引き続き実施します。これまで多くの移住者に利用され、安定した成果が出ているため、今後も住みやすい環境づくりに取り組みます。

住環境の整備としては、令和4年度から進めている野津中学校隣接地での宅地開発事業を、本年も引き続き進めます。具体的には、宅地の造成や道路、公園、防火水槽の整備を行い、令和7年度中には分譲の募集を開始する予定です。

医療や介護の分野では、「うすき石仏ねっと」を活用した認知症支援や、健診内容の充実による病気の早期発見、地域包括ケアの推進を引き続き進めていきます。また、带状疱疹ワクチンについては、国の制度では対象外となる 50 歳以上の市民に対して、本市独自の支援として接種費用の半額を助成し、健康な生活をサポートします。

防災の取り組みとしては、防災カメラの更新や備蓄品、訓練用備品の整備、避難通路の改修を着実に進めます。さらに、地震や津波で孤立が想定される地区には、ベンチ型備蓄ボックスを設置し、非常時に備えます。

消防力の強化としては、消防ポンプ車や小型動力ポンプの更新を行い、災害発生時の対応力を高めます。

公共施設については、日常生活や地域産業を支えるインフラとして、道路や橋の整備を積

極的に進めます。雨水対策では、狭間第4雨水幹線の整備を引き続き進め、市浜地区の浸水被害を軽減します。

新たな取り組みとして、望まれずに生まれる子猫を増やさないために、所有者のいない猫の繁殖抑制を目的とした助成制度を始めます。これにより、地域の生活環境を守り、動物との共生を促進していきます。

以上の3つの重点施策に加え、次の取り組みも進めていきます。

まず、市民の皆さまにとって便利で効率的な市役所づくりを目指し、デジタル化やICT技術を活用していきます。具体的には、行政手続のオンライン化やデジタル申請の導入を進めるほか、自治体情報システムの標準化にも積極的に取り組んでいきます。

新たな取り組みとしては、私が地域で活動する団体の皆さまと直接対談を行い、市民の声を市政に活かしていきます。また、異なる業種の人たちが交流し、若い世代の人材育成につなげる機会もつくっていきます。

自主財源の確保に向けては、「ふるさと納税」を今後も有効に活用していきます。今年度は現時点で約5億7千万円のご寄付をいただいております。皆さまからの温かいご支援を臼杵のまちづくりに役立ててまいります。今後も臼杵の魅力を効果的にPRし、ふるさと納税額のさらなる増加を目指します。あわせて、地元ならではの魅力的な特産品づくりを進め、地域産業の活性化にもつなげていきます。

さらに、「企業版ふるさと納税」についても、本年は7社からご支援をいただいております。今後は私が企業に臼杵市の魅力を直接伝え、応援してくださる企業の輪を更に広げていきます。

旧野津高校跡地の再活用については、「再活用の方針」に定めた、「地域住民の交流」、「交流人口の創出」及び「農林業の振興」という基本コンセプトに沿って、まずは、教室棟を「臼杵市多世代交流館」、愛称「のつてらす」とし、本年4月末より「子どもから高齢者まで幅広い世代が集まり楽しめる拠点施設」として運用を開始します。

また、グラウンドについては、大分県農業協同組合（JA おおいた）が整備を計画しています「かんしょ広域選果場」の用地として、貸付することとします。高糖度かんしょ「甘太くん」の市場ニーズは年々大きくなっており、本市は現在県下最大の産地となっております。この広域選果場整備後は、選果処理能力が向上し、生産者は安心して生産規模の拡大を図ることができるようになることから、更なる産地振興に繋がるものと期待されます。

最後に、これまでご説明した方針や施策に基づき、令和7年度の予算を編成しました。

一般会計予算の総額は235億1,834万円で、前年度と比べて11億4,743万4千円（5.1%増）となり、過去最大の規模となりました。

令和7年度は、引き続き物価の動向を注視しながら、現在策定中の「臼杵市総合計画」と「総合戦略」に掲げたまちづくりの実現に向け、積極的に取り組んでまいります。

以 上